

# 仕事や学校、家庭での生活を あなたらしく過ごさせていますか？

子どもの頃は男女という性別を意識することなく、男の子も女の子も一緒に遊んだり、一緒にご飯を食べたりと男女で分け隔てなく生活を送ります。しかし年齢を重ねて社会に出るとどうでしょうか。

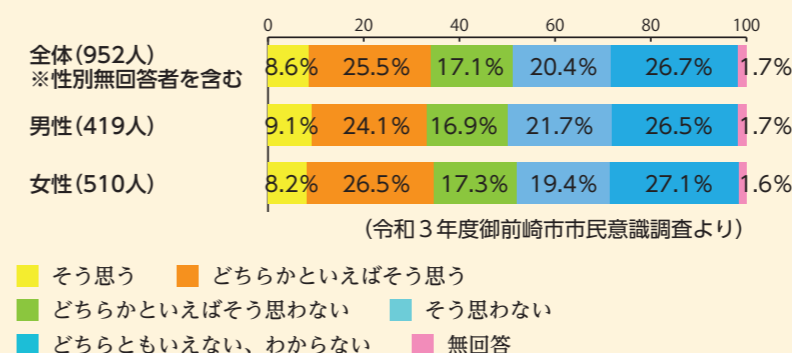
日本の社会では、古くから男性が働きに出て、女性が家庭で家事や育児をこなすという形態が当たり前になっていました。政治や社会の主要な役割も男性が担い、女性が要職に就くことはほとんどありませんでした。現代社会でも、こうした考えや習慣がいまだに根深く残り、女性が自分らしく、個性や能力を発揮できる社会の実現の障害になっています。

できます。それは、自分で選ぶことのできない運命のようなものです。その生物学的な性別によって、その後の生き方が決められてしまうような社会はなくなっていかねればなりません。

平成11年6月23日に「男女共同参画社会基本法」が公布、施行されました。同法では、男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会を実現するための基本理念と、行政と国民それぞれが果たすべき役割（責務、基本的施策）が定められています。すべての人が、職場で、学校で、地域で、家庭で、個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、皆さん一人ひとりの意識改革が必要です。

**男女共同参画社会とは…**  
性別に関わらず、一人ひとりが持っている個性や能力を十分に発揮し、ともに夢や希望を実現できる社会のことです。

Q.性別に関わりなく個性と能力を発揮する機会が確保されていると思いますか



調査結果を見ると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という人の割合は、全体で 34.1%にとどまっており、まだまだ個性や能力を発揮する機会が確保されていないことがうかがえます。

意識を変えよう  
共働きや核家族化が進み、女性の社会進出や男性の家事育児への参画は少しずつ進んでいます。しかし、以前は「女性だから家庭に入るべきだ」と、性別を理由に女性が仕事を選べないこともありました。中には、女性が家庭以外の様々な場面で活躍することに對して、ネガティブな印象を持つ人もいました。今も残念ながら、そのような風潮が家庭や職場などで根強く残っていると感じます。家庭を例に挙げてみます。自分の身の回りのことは自分でやっているでしょうか。女性やパートナーに任せきりになっていないでしょうか。家庭内の仕事は、誰が何をやるか決まりはいいはずですが、思いやりの心をもち、性別に関わらず家族のためにできることをやる。それが結果的に、男性の家庭内の自立と女性活躍推進につながっていくはず。誰もが自分らしく生きていけるよう、一人ひとりが意識を変える必要があります。



市男女共同参画推進市民議員 落合美恵子さん

## 男女共同参画社会の実現に向けて、今からできること

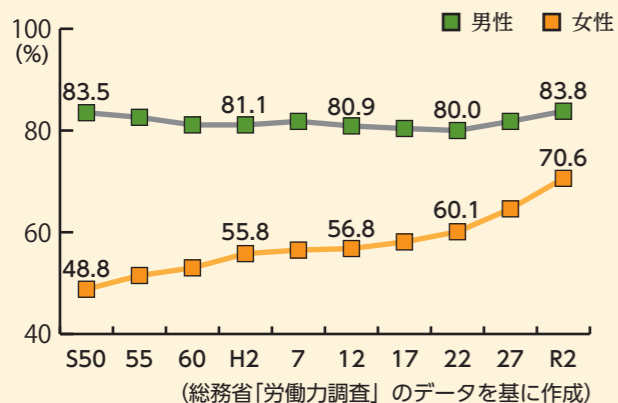


- ・性別やジェンダーにとらわれず、お互いの個性や違いを認め合い、尊重しよう
- ・性別に関わりなく、家庭や仕事、地域活動に参画しよう
- ・みんなで協力して、家事・育児をしよう

## 家族で協力して、家事や育児をすることから始めましょう



▼昭和50年～令和2年における15～64歳までの就業率の推移



▼夫婦と子供から成る世帯の1日の家事・育児時間(有業者)

仕事時間	女性	6時間 42分
	男性	9時間 09分
家事時間	女性	2時間 29分
	男性	0時間 50分
育児時間	女性	2時間 13分
	男性	0時間 55分

内閣府「令和3年版男女共同参画白書」より引用

皆さんのご家庭ではどなたが家事や育児をしていますか？  
左記のグラフは、総務省が毎月実施している「労働力調査」の結果を基に作成したものです。昭和50年における女性の15歳から64歳までの就業率の平均値が48.8%であるのに対し、令和2年の平均値は70.6%と21.8%も上昇しています。このことから、半世紀の間に女性の社会進出が著しく進んだことが読み取れます。

倍以上家事や育児をしていることが分かります。家事や育児に縛られることは、女性が家庭外で個性や能力を発揮できない原因の一つとなっています。  
働くお母さんが、職場や地域などで自分の個性や能力を発揮できるように、家事や育児を「分担する」と考えるのではなく、「共有する」というシェアマインドを持つことが解決への第一歩です。まずは、パートナーと一緒に家事や育児について話し合ってみましょう。

## 仕事と家庭を両立するパパにインタビュー



家事や育児を経験したことで、仕事との両立がいかに大変なことか実感しました。



三宅 裕貴さん

上司から育児休業を取ってみないかと声をかけていただき、思い切って取得しました。職場も理解があり不安はありませんでした。育児休業中に大変だったことは、限りある時間の中で家事と育児をすることです。それまでは、一日中、一人で子どもの面倒をみたことがありませんでした。子どもは思うままに行動するので、目を離さないようにすると家事は後回しになります。あっという間に時間が過ぎ、自分の時間は全くありません。この作業を仕事に行く前や帰ってきた後にすることがどれだけ大変なことか気がきました。家事と育児の大変さを身をもって感じ、仕事と家庭を両立する妻のことをすごいと思いました。家事や育児の大変さを痛感したこともあり、家にいるときはできるだけ家事をするようにしています。「家事や育児は女性だけがやるものじゃない」。これからも夫婦で協力しながら家事と育児をしていきたいと思っています。